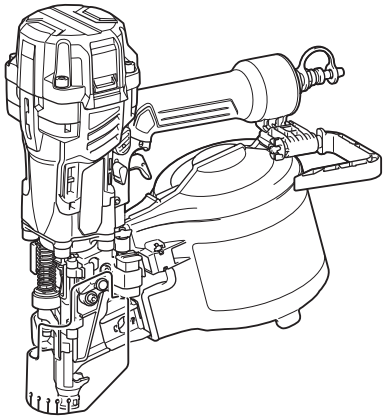
ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

makita

取扱説明書

90mm
高圧エア釘打
モデル AN936H



このたびは90mm高圧エア釘打をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本製品の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

目次

・主要機能----3
・安全上のご注意----4
・各部の名称および標準付属品----8
・別販売品のご紹介----9
・使い方----12
　・安全装置の確認----12
　・トリガロックの操作方法----13
　・コンプレッサの選定について----14
　・エアホースの選定について----15
　・コンプレッサ、エアホースの保管・点検----15
　・釘の入れ方----16
　・単発・連続打ちの切替機構（自動切替構造となっています。）----18
　・アジャスタ（打ち込み深さ調整）の操作方法----19
　・フックの使い方----20
　・エアホースの接続----21
　・ノーズアダプタＳの使い方----22
　・ノーズアダプタＳの取り付け方法----22
　・エアダスタの使い方----23
　・連結シートの切り方----24
　・釘詰まりの直し方----25
　・エア圧力の目安と調整方法----26
　・鋼板への釘打ち作業について----27
　・鋼板用焼入釘の選び方----28
　・コンクリートへの釘打ち作業について----29
・保守・点検について----30
　・作業後の保管----30
　・本製品の清掃----31
　・純正オイルの使用----31
　・本製品のお手入れ----31
　・ご修理の際は----31
・高圧エア釘打 保証書----36

主要機能

モデル / 主要機能	AN936H
使用空気圧力	1.28 ～ 2.26 MPa（13 ～ 23 kgf/cm^2）
使用釘	ワイヤ釘　45 ～ 90 mm シート釘（ワイド）45 ～ 75 mm
釘装てん数	ワイヤ釘：120 ～ 300 本（1 巻） シート釘：200 本（1 巻）
質量	2.7 kg
本製品寸法	長さ 290 mm ×幅 125 mm ×高さ 332 mm
使用エアホース	マキタ高圧エアホース　内径 4.0 mm 以上

・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

保証について

・ 本製品には巻末に保証書がついております。
・ 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
・ 本製品は、保証書の記載内容に基づき無償保証いたします。故障した場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所に製品と保証書をお持ち込みください。
・ 保証期間中の修理は無償修理規定に基づきます。詳細は保証書をご覧ください。

安全上のご注意

JPB069-13

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ほかの人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

注意文の ⚠警告 ・ ⚠注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
なお ⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

⚠警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
・ 本製品の取扱知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 次のときは、本製品を使用しないでください。
・ 事故の原因になります。
○疲れているとき、身体が不調なとき。
○酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
3. 保護メガネ、耳栓を装着し、また作業環境に応じてヘルメットなども着用して釘打ち作業をしてください。
・ 装着しないと打ち損じの釘や釘の連結片で目などにけがをしたり、排気音で耳を傷める原因になります。
4. 揮発性可燃物（ガソリン･シンナーなど）の近くでは使用しないでください。
・ 釘を打ち込むときの火花で火災を起こす恐れがあります。
5. 釘打ち作業以外の用途には使用しないでください。
・ 事故の原因になります。
6. 本製品に刻印や溶接などの改造をしないでください。
・ 外枠が破損し、けがの原因になります。
7. 動力源は圧縮空気を使用してください。
・ 圧縮空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素など）を用いると爆発する恐れがあります。
8. 圧縮空気の圧力は 1.28 ～ 2.26 MPa（13 ～ 23 kgf/cm^2）の範囲内で使用してください。
・ 高すぎる圧力は、本製品損傷による事故の原因になります。
9. カバーは、はずさないでください。
・ はずすと釘の連結片や打ち損じの釘が飛散し、事故の原因になります。
10. 安全装置が正常に作動するか確認してからご使用ください。
・ 安全装置に異常があると、事故の原因になります。
11. 足場を使って作業する場合、常に足場をしっかりさせ、バランスが保てる姿勢で作業してください。
・ 足場が不安定だと事故の原因になります。
12. 屋根などで作業をするときは、前進しながら打つようにしてください。
・ 後退しながら打つと足を踏みはずし、事故の原因になります。
13. 近くに人がいないことを確認してから作業を始めてください。
・ 打ち損じの釘や釘の連結片などが当たり、けがをする原因となります。
14. 壁の内、外側からの同時作業はしないでください。
・ 釘が突き抜けたり、それたりしたとき、事故の原因になります。
15. 高所での作業のときは、ホースの固定箇所を設けてください。
・ 不意に引っ張られたり、引っかかったりしたとき、事故の原因になります。
16. 射出口やエアダスタ吹出口を人に向けたり、手足を射出口やエアダスタ吹出口付近に近づけたりしないでください。
・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。
17. トリガに指をかけたまま持ち運んだり、手渡しなどをしないでください。
・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。
18. エアホースをつなぐときは、トリガに指をかけないでください。
・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。
19. エアホースを抜くときは、トリガに指をかけないでください。
・ 次にエアホースをつないだとき、誤って発射された場合に事故の原因になります。

⚠警告

20.本製品を落とす、ぶつける、たたくなどをしないでください。強い衝撃を与えた場合は、本製品に破損や亀裂がないか、また安全装置が正常に作動するかを確認してから使用してください。
・ 本製品内部には圧縮空気が充てんされており、破裂や事故の原因になります。

21.次の場合は、トリガをロックしエアホースを本製品からはずしてください。
・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。
〇修理する場合。
〇釘を装てんする場合、また取り出す場合。
〇作業中、本製品を持って移動する場合。
〇本製品を使用しない場合。
〇本製品の調整または点検を行う場合。
〇釘詰まりを直す場合。
〇コンタクトトップを交換する場合。（コンタクトトップ交換可能モデル）

22.十分な、防じん対策や飛散防止対策をしてください。
・ 特に、人体に有害な成分を含む材料を加工するときは、注意してください。

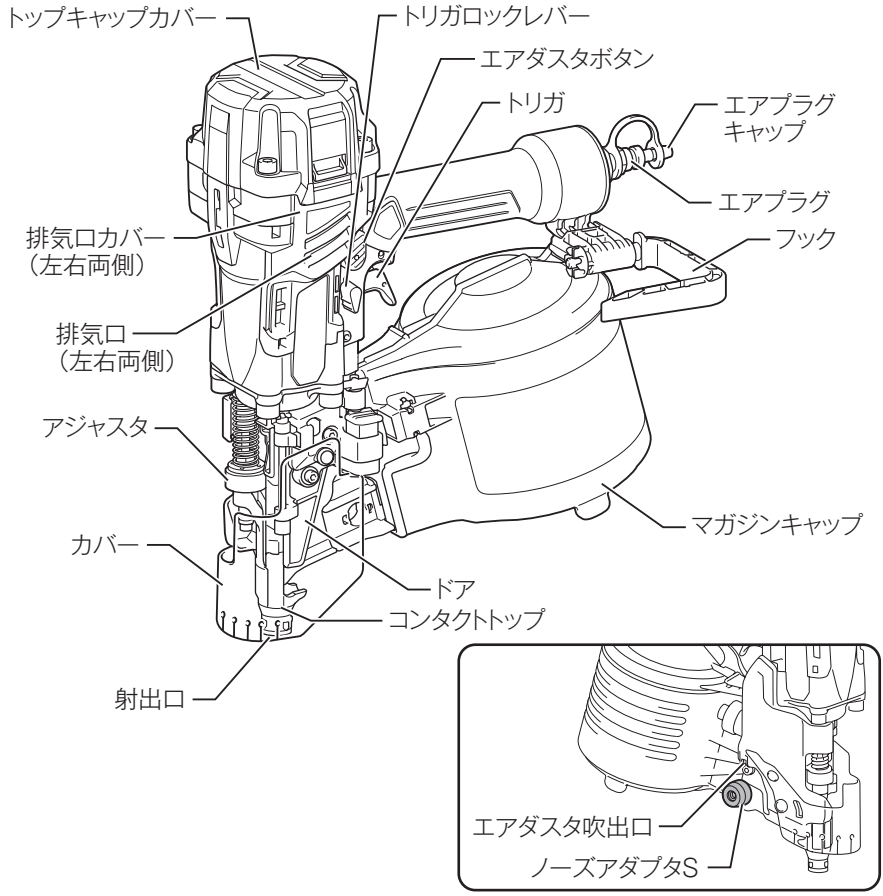
23.アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用しないでください。
・ アスベストは、人体に肺がんなどの重大な健康被害を発症させる物質です。

24.アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用した本製品の保守・点検・修理は受付できません。

⚠ 注意

1. 裾や袖の締まりのよい服装をしてください。
・ 袖口や裾の開いた衣服などで作業しますと、事故の原因になります。
2. 作業場は、いつも明るくきれいにしてください。
・ 暗かったり、ちらかった所での作業は事故の原因になります。
3. 使用前に、部品が損傷していないか、ボルトがゆるんでいないか、エア漏れがないかを点検してください。
・ 不完全な本製品を使用すると、事故の原因になります。
4. 作業する箇所に電線管やガス管などの埋設物がないことを確かめてください。
・ 埋設物を損傷すると感電やガス漏れ事故の原因になります。
5. 射出口を確実に材料に当ててからトリガを操作してください。
・ 確実に当てていないと、釘がはね返り、事故の原因になります。
6. 作業中は、本製品に顔などを近づけないでください。
・ 釘の上や木の節などに当たった場合、本製品が大きく反動し、けがをする原因になります。
7. 鋼板に打ったり、トタンなどを取り付ける作業はしないでください。
・ 釘が身体に当たるなど、けがの原因になります。
8. 作業中に本製品の調子が悪くなったり、異常に気づいた場合には、ただちに使用を中止してください。
・ そのまま使用していると事故の原因になります。
9. 本製品およびコンプレッサは、空気充てんのまま長時間直射日光に当てて放置しないでください。
・ タンク内および本製品内の高圧の空気がさらに高圧になり、事故の原因になります。
10. 本製品の握り部は常に乾かしてきれいな状態を保ってください。
・ 握り部が滑りやすいとけがの原因になります。
11. いつも安全に能率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因となります。

各部の名称および標準付属品



標準付属品

- セフティゴーグル（保護メガネ）
- 油さし（タービン油VG32）
- ノーズアダプタS
- 六角棒スパナ4
- プラスチックケース

別販売品のご紹介

・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げの販売店、または当社営業所へお問い合わせください。

・ 高圧ホース

種類	ホース径 (外径×内径 mm)	長さ	部品番号	仕様
高圧スリック スリムホース	8 × 4	10 m	A-51736	ワンタッチ ジョイント付 (ロータリー付)
		15 m	A-51742	
		20 m	A-51758	
高圧スリック ホース	9 × 5	10 m	A-57211	
		15 m	A-57227	
		20 m	A-57233	
		30 m	A-57249	
	10 × 6	10 m	A-46280	
		15 m	A-56552	
		20 m	A-46296	
		30 m	A-46305	
高圧用エアホース	9 × 5.3	20 m	A-41654	ワンタッチ ジョイント付
		30 m	A-41660	

別販売品のご紹介

・ ワイヤ釘

材質	用途		種類	長さ (mm)	胴径 (mm)	頭径 (mm)	型式	部品番号	梱包単位 (1 箱)
鉄	一般木材		無地 スムース	65	2.5	6.0	WY2565M	F-10056	300 本× 10 巻× 2 箱
				50	2.5	6.0	WF2550	F-10133	300 本× 30 巻
				57	2.5	6.0	WF2557	F-10146	300 本× 30 巻
				65	2.5	6.0	WF2565	F-10159	300 本× 20 巻
				75	3.1	7.2	WF3175M	F-10162	200 本× 10 巻× 2 箱
				85	3.1	7.2	WF3185	F-10577	200 本× 20 巻
				90	3.1	7.5	WF3190M	F-10252	150 本× 10 巻× 2 箱
			スクリュ チゼル	50	2.5	6.0	WFS2550C	F-10175	300 本× 30 巻
					2.9	7.0	WFS2950C	F-10207	250 本× 20 巻
				57	2.9	7.0	WFS2957C	F-10210	250 本× 20 巻
					2.5	6.0	WFS2557C	F-10188	300 本× 30 巻
				65	2.5	6.0	WFS2565CM	F-10191	300 本× 10 巻× 2 箱
					2.9	7.0	WFS2965C(C)	F-11595	250 本× 20 巻
					2.5	6.0	WFS2565C	F-10638	300 本× 30 巻
				71	2.9	7.0	WFS2971C	F-11399	250 本× 20 巻
				75	3.1	7.0	WFS3275CM	F-10249	200 本× 10 巻× 2 箱
				85	3.1	7.0	WFS3185C	F-10580	200 本× 20 巻
				90	3.1	7.0	WFS3290CM	F-10265	150 本× 10 巻× 2 箱
				65	2.5	6.0	WYS2565C	F-10728	300 本× 30 巻
	N 釘	JIS 適合品	N45	45	2.5	5.8	WF2545N	F-10069	300 本× 30 巻
			N50	50	2.8	6.6	WF2850N	F-10966	250 本× 10 巻
			N65	65	3.1	7.3	WF3165N	F-11058	250 本× 10 巻
			N75	75	3.4	7.5	WF3475N	F-11061	200 本× 10 巻
			N90	90	3.8	8.6	WF3890N-L	F-11450	120 本× 10 巻
	CN 釘	JIS 適合品	CN50	50	2.9	6.8	WF2950	F-11087	250 本× 10 巻
			CN65	65	3.3	7.1	WF3365	F-11045	200 本× 10 巻
			CN75	75	3.8	7.9	WF3875	F-10979	150 本× 10 巻
		JIS 相当品	CN90	90	3.8	7.9	WF3890	F-10982	150 本× 10 巻
	CNZ 釘	JIS 適合品	CNZ50	50	2.9	6.8	WF2950X	F-11344	250 本× 10 巻
			CNZ65	65	3.3	7.1	WF3365X	F-11357	200 本× 10 巻
			CNZ75	75	3.8	7.9	WF3875X	F-11360	150 本× 10 巻
		JIS 相当品	CNZ90	90	3.8	7.9	WF3890X	F-11373	150 本× 10 巻

別販売品のご紹介

・ シート釘

材質	用途	種類	長さ (mm)	胴径 (mm)	頭径 (mm)	型式	部品番号	梱包単位 (1 箱)
鉄	鋼板	焼入れ スクリュ	45	2.52	5.5	MNS2545HM	F-50179	200 本× 10 巻× 2 箱
			50			MNS2550HM	F-50182	200 本× 10 巻× 2 箱
	コンクリート	焼入れ スムース	45	2.52	5.5	MN2545HM	F-50124	200 本× 10 巻× 2 箱
			50			MN2550HM	F-50137	200 本× 10 巻× 2 箱
			65			MN2565HM	F-50140	200 本× 10 巻× 2 箱

使い方

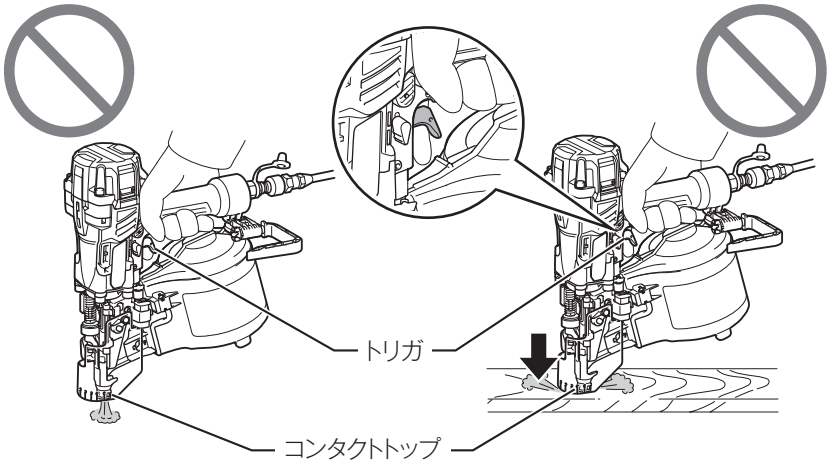
安全装置の確認

⚠ 警告

安全装置に異常がある場合は使用しないでください。
・ そのまま使用すると事故の原因になります。

・ 釘を打つ作業に入る前に安全装置に異常がないかを下記の手順で確認してください。

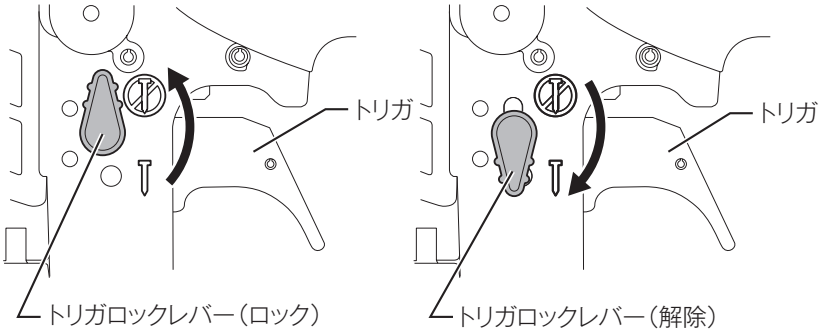
1. 作業に入る前に本製品に釘が装てんされていないことを確認してください。
2. 本製品にエアホースを接続します。
3. まずトリガだけを引いてください。次にトリガから指を放し、コンタクトトップを材料に押し当ててください。
4. 上記 3 の操作で本製品が作動する場合は、安全装置が異常です。



使い方

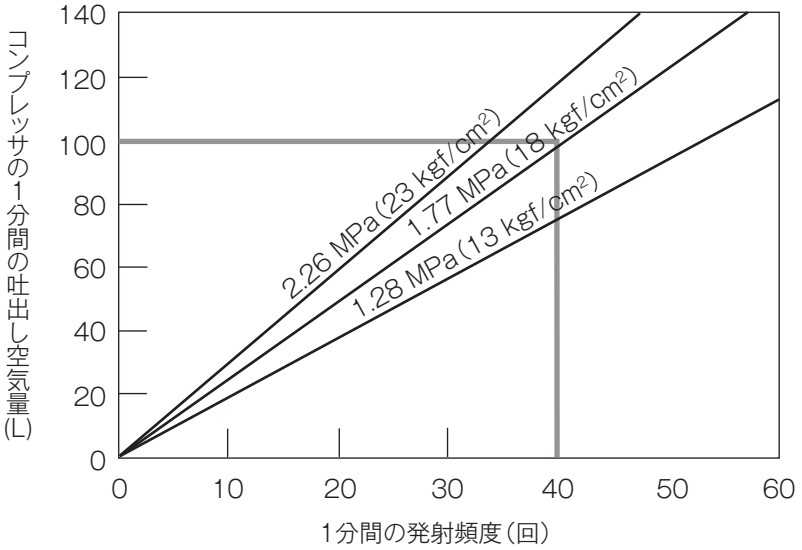
トリガロックの操作方法

- 本製品には釘打ち作業をしていないとき、誤った操作による事故を防ぐために、トリガロック機構を装備しています。トリガロックとは、トリガをロックし、発射しない状態にする機構です。
- トリガロックレバーを ⊘ の位置にすると、トリガが固定されます。
- 釘を打つときは、トリガロックレバーを⇦の位置にしてください。作業時以外はトリガをロックして、エアホースをはずしてください。



コンプレッサの選定について

- 本製品を能率よく使用するために、コンプレッサの最高圧力と吐出し空気量は余裕のあるものを使用してください。コンプレッサを選定されるときは図を参考にしてください。
- 図は本製品での発射頻度、使用圧力とコンプレッサの吐出し空気量の関係を示します。たとえば、使用圧力が1.77 MPa（18 kgf/cm^2）で発射頻度が1分間に約40回ですと、吐出し空気量100 L/min 以上のコンプレッサが必要です。



使い方

エアホースの選定について

・ 高圧用エアホースを使用してください。
・ 連続作業を効率よく行うためにエアホースは太く短いものを使用してください。
※エアホースの内径が 4 mm の場合は 20 m 以下の長さに、内径が 4 mm を超える場合は 30 m 以下の長さを目安に選定してください。

注

・ 釘の発射頻度に比べ、エアコンプレッサの吐出し空気量が少ない場合や、エアホースの内径が細いか、長すぎる場合は、打ち込み力が低下します。

コンプレッサ、エアホースの保管・点検

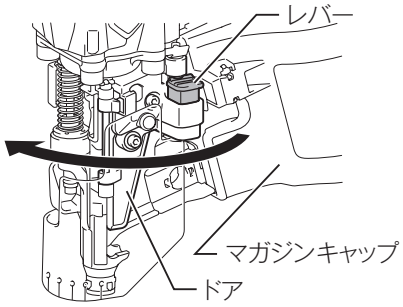
・ 作業後は必ずコンプレッサのタンクの水抜きをしてください。水がたまった状態で使用されますと、本製品の能力が低下するばかりでなく、故障の原因になります。
・ エアホースは熱（60 ℃以上）、薬品（ シンナー、強酸、強アルカリなど）および傷つけやすいものから保護するようにしてください。

釘の入れ方

⚠ 警告

釘を装てんする際は、必ずトリガをロックしてエアホースをはずしてください。
・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

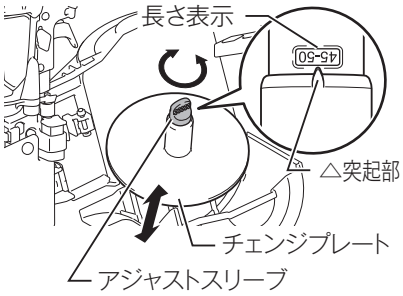
1. トリガをロックしてエアホースをはずします。
2. レバーを押しながら、ドアを開け、マガジンキャップを開きます。



⚠ 注意

必ず使用する釘の長さに合わせて、チェンジプレートの高さを調整してください。
・ 不適切な位置で使用すると釘送り不良の原因となります。

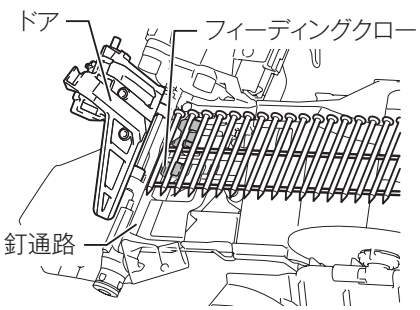
3. 使用する釘の長さに合わせて、チェンジプレートの高さを調整します。アジャストスリーブを指で回し、チェンジプレートの高さを上下に移動させ、長さ表示をチェンジプレート△突起部に合わせます。



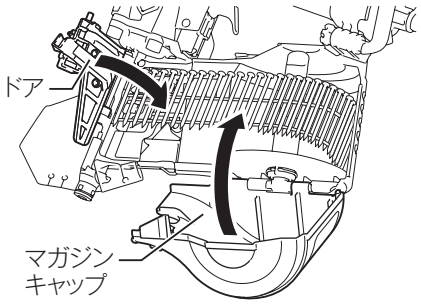
長さ表示	釘の長さ
45-50	45 mm 50 mm
57-65	57 mm 65 mm
75	71 mm 75 mm
90	85 mm 90 mm

4. 釘をチェンジプレートに乗せ、先頭の釘をドライバガイドまで引き出し、マガジンキャップを閉めます。

5. 先頭の釘を釘通路まで完全に入れます。その際、フィーディングクロー（釘送り爪）に２本目の釘が完全にセットされていることを確認してください。



6. レバーがしっかり止まるまで、ゆっくりとドアを閉じます。
・ ドア、マガジンキャップのどちらからでも閉じることができます。



注

- 釘や釘の連結が変形したものは、使用しないでください。
- 指定の釘を使用してください。指定以外の釘を使用すると、釘詰まりや故障の原因になります。

使い方

単発・連続打ちの切替機構（自動切替構造となっています。）

「単発打ち」方法

・ 単発打ちでは、打ち込み対象物にコンタクトトップを押し当て、トリガを引く操作で釘を1 本ずつ打つことができます。主に仕上げを重視する場合や狙った所に打つ場合に適しています。

1. トリガロックレバーを⇦の位置にしてトリガロックを解除します。
2. 打ち込み対象物にコンタクトトップを押し当てます。
3. トリガを引きます。

「連続打ち」方法

・ 連続打ちでは、トリガを引いたまま打ち込み対象物にコンタクトトップを押し当てる操作を繰り返すことで、連続的に釘を打つことができます。主に床、壁、屋根などの下地打ちの場合に適しています。

1. トリガロックレバーを⇦の位置にしてトリガロックを解除します。
2. トリガを引きます。
3. トリガを引いたまま打ち込み対象物にコンタクトトップを押し当てれば、連続打ちができます。

注

- **単発打ちでトリガを引いたまま、再度コンタクトトップを打ち込み対象物に押し当てても釘は発射されません。続けて連続打ちする場合は、トリガから指をいったん放してから連続打ちの操作を行ってください。**
- **釘の無くなった状態で空打ちをし続けると材料を傷めるだけでなく、本製品の耐久性を損ないます。空打ちをしないでください。**

アジャスタ（打ち込み深さ調整）の操作方法

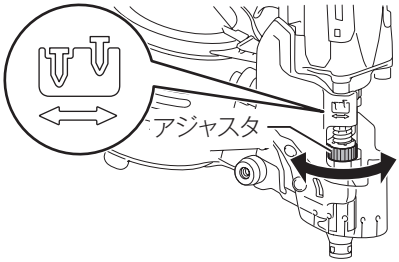
⚠ 警告

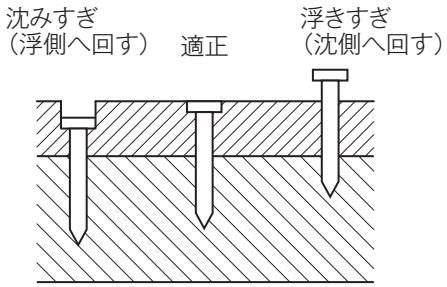
打ち込み深さ調整の際は、必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

・ 本製品は釘の打ち込み深さを調整する、アジャスタ機構を装備しています。

・ アジャスタを回転させて、打ち込み深さを調整してください。打ち込み調整幅は8.5 mmです。（1 回転で約1.25 mmの調整ができます。）





・ 一般的に使用空気圧を低くして、調整目盛を ⍑ 沈側で使用した方が本製品は長持ちします。

使い方

フックの使い方

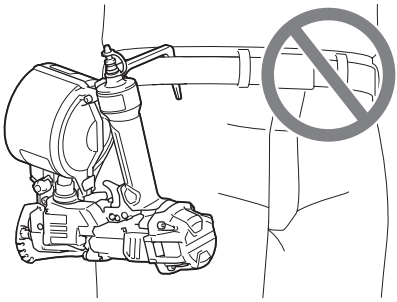
⚠ 警告

フックの位置を変える場合や、フックご使用の際は必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

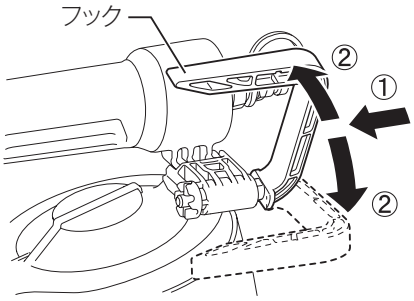
フックを取り付ける際は、ボルトをしっかり締めてください。

フックを腰のベルトなどにかけないでください。

・ フックがはずれて本製品が落下した場合、誤作動する恐れがあり、事故の原因になります。

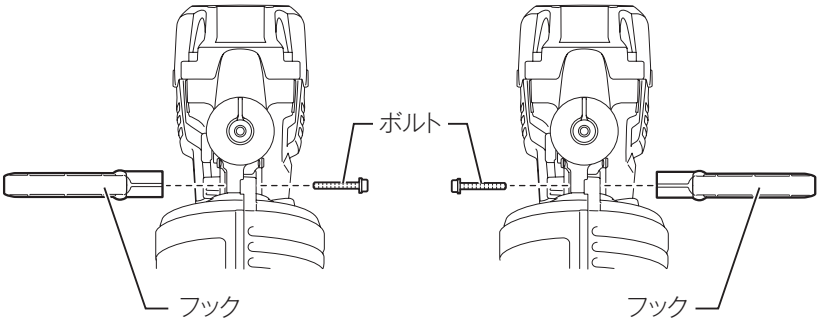


・ フックは本製品を一時引っかけておくのに便利です。
・ 本製品は、フックの取り付け角度を変更できます。
角度を変更するときは、フックを押しながらお望みの角度に変更してください。



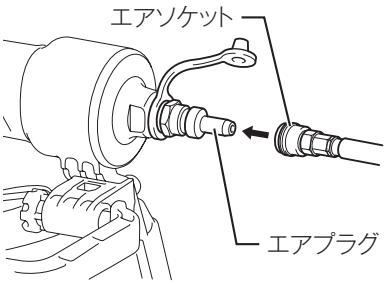
使い方

・ フックは左右どちらにも取り付けができます。
位置を変えるときは、付属の六角棒スパナ4でボルトをはずし、フックの取り付け位置を変え、ボルトでしっかり取り付けてください。



エアホースの接続

・ トリガをロックし、本製品のエアプラグにエアホースのエアソケットをしっかり挿し込んでください。



注

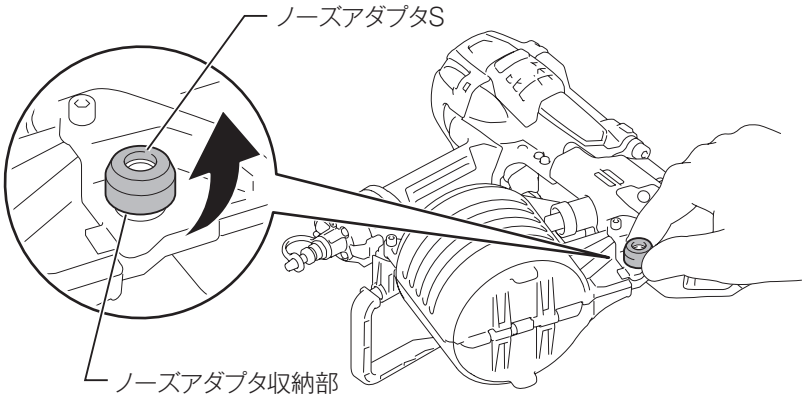
・ **エアソケットをエアプラグにしっかり挿し込んでいないと、不意にはずれて事故の原因になります。**

ノーズアダプタ S の使い方

⚠ 警告

ノーズアダプタ S 着脱の際は、必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。
- 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

- コンタクトトップで材料に傷を付けたくないときは、コンタクトトップの先端部にノーズアダプタSを取り付けてください。
- ノーズアダプタ収納部からノーズアダプタSを取りはずす場合は、持ち上げるようにはずしてください。

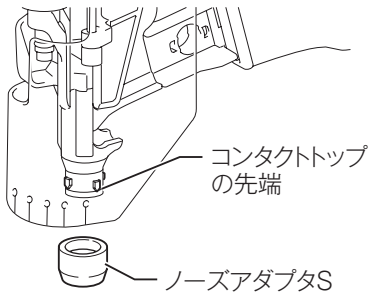


注

- **ノーズアダプタ S を使用しないときは、ノーズアダプタ収納部にしっかり押し込み、固定してください。**

ノーズアダプタ S の取り付け方法

- ノーズアダプタSを図の向きにして、コンタクトトップの先端にしっかり押し込んでください。

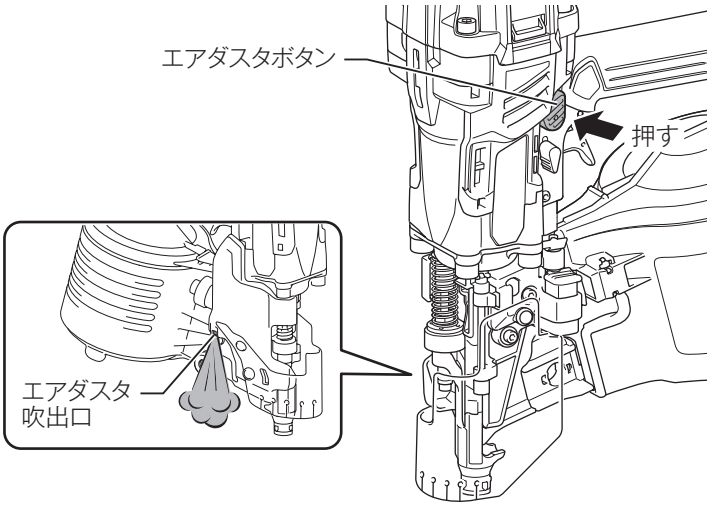


エアダスタの使い方

⚠ 警告

エアダスタを使用するときは必ずトリガをロックしてください。
エアダスタ吹出口を人に向けたり、手足を吹出口付近に近づけたりしないでください。
・ 誤って吹き出した場合、事故の原因になります。
近くに人がいないことを確認してから使用してください。
・ 吹き飛ばしたホコリや木屑などが当たり、けがをする原因になります。
エアダスタボタンを押したまま、エアホースをつないだり、はずしたりしないでください。
エアダスタを使用すると一時的に打ち込み力が低下する場合があります。
エアコンプレッサの圧力が回復してから作業を始めてください。
注油直後にエアダスタを使用すると、オイルがエアダスタ吹出口より霧状に飛び散る場合があります。油がかかっても支障のない所で試してから作業してください。

・ エアダスタを使用すれば、ホコリや木屑を吹き飛ばすことができます。



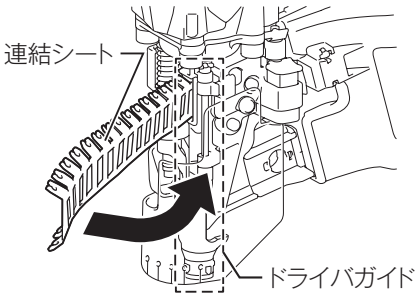
連結シートの切り方

⚠ 警告

連結シートを切る際は、必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

1. シート連結釘を使用していると、ドライバガイドより連結シートが出てきます。
2. 出てきた連結シートは矢印の方向に引きちぎってください。

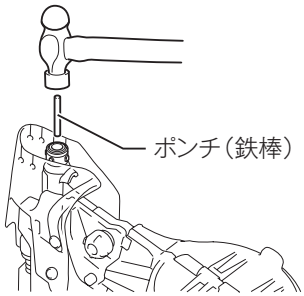


釘詰まりの直し方

⚠ 警告

釘詰まりを直す際は、必ずトリガをロックして、エアホースをはずしてください。
- 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

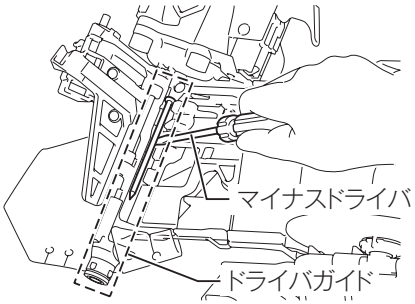
1. トリガをロックして、エアホースをはずします。
2. ドアとマガジンキャップを開き、装てんされている連結釘を抜き取ります。
3. 射出口に釘の頭径位のポンチ（鉄棒）を挿し込み、ハンマでドライバ（芯棒）を徐々にたたきます。



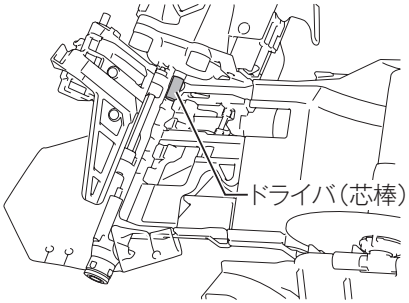
注

- **一度にたたくと、ポンチ（鉄棒）が挟まり、取れなくなる場合があります。**

4. ドライバガイドの内部に詰まった釘をマイナスドライバなどで取り除きます。



5. 釘を除去した後、ドライバ（芯棒）が釘通路に出ていないことを確認します。



注

- **ドライバが出ていた場合はポンチ（鉄棒）またはマイナスドライバなどで押し込んでください。**

6. 釘を装てんします。

使い方

エア圧力の目安と調整方法

・ 下表を目安にエア圧力を調整してください。

1. 打ち込み深さ調整を沈み方向いっぱいに調整します。
2. 試し打ちを行います。
   釘が沈みすぎるとき⇒エア圧力を下げてください。
   釘が浮いてしまうとき⇒エア圧力を上げてください。

用途	使用釘長さ	使用エア圧力
木下地打ち	45 ～ 65 mm	1.38 MPa（14 kgf/cm^2）
	75 ～ 90 mm	1.96 MPa（20 kgf/cm^2）
鋼板打ち	鋼板厚さ 2.3 以下	1.38 MPa（14 kgf/cm^2）
	鋼板厚さ 3.2	2.06 MPa（21 kgf/cm^2）
コンクリート、窯業系サイディング打ち		1.77 MPa（18 kgf/cm^2）

※アジャスタ（打ち込み深さ調整）による調整も可能ですが、一般的に使用空気圧を低くして、調整目盛を ╥ 沈側で使用した方が安定した打ち込みができ、本製品が長持ちします。

鋼板への釘打ち作業について

⚠ 警告

鋼板は厚さ 3.2 mm 以下を使用してください。
・ 本製品が大きく反動したり、釘がはね返るなど、事故の原因になります。

釘は鋼板用焼入釘を使用してください。
・ 鋼板用焼入釘以外の釘を使用しますと、事故の原因となります。

釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。
・ 斜めに打つと釘がはね返り、事故の原因になります。

鋼板に直接打ったり、直接トタンなどを取り付ける作業はしないでください。
・ 事故の原因になります。

屋根・天井へは使用しないでください。
・ 事故の原因になります。

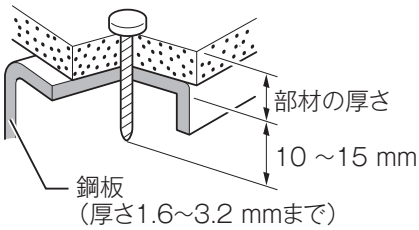
使い方

鋼板用焼入釘の選び方

・ 釘の長さが部材の厚さに比べて長すぎると、釘が鋼板に入らず曲がる場合があり、けがなど事故の原因となります。
・ 下表を参考にして、適切な釘の長さを選定してご使用ください。

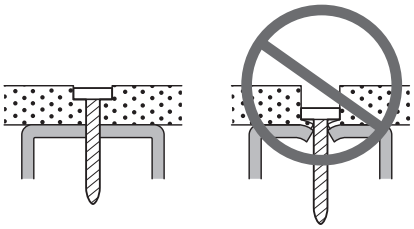
部材の厚さ（mm）	釘の長さ (mm)
30 ～ 35	45
35 ～ 40	50

※鋼板の厚さが 3.2 mm の場合、胴径が 2.9 mm の鋼板用釘を使用してください。



注

・ 鋼板および打ち込み部材の硬さや厚さ、または釘の長さの組み合せによっては釘が曲がったり十分に打ち込めないことがあります。
・ 使用空気圧を低くし、打ち込み深さ調整を 🐢 沈側で使用すると安定した打ち込みができます。
・ 釘の打ち込みすぎは、打ち込み部材が変形し、極端に保持力が低下しますので、使用空気圧を調整して、使用してください。（右図参照）
・ 鋼板への釘打ち作業ではドライバ（芯棒）が摩耗しやすくなります。摩耗すると釘が正常に打ち込めない場合がありますので、新品のドライバ（芯棒）に交換してください。



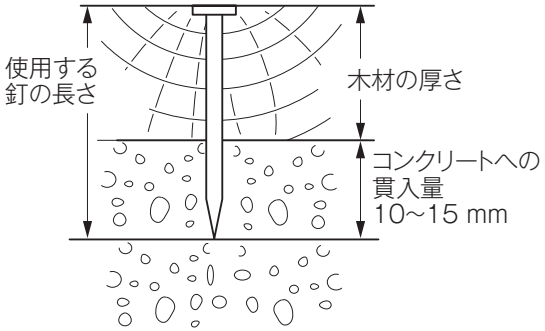
コンクリートへの釘打ち作業について

⚠ 警告

釘はコンクリート用焼入釘を使用してください。
・ コンクリート用焼入釘以外の釘を使用しますと、事故の原因になります。
コンクリートに直打ちしたり､直接板金などを取り付ける作業はしないでください。
・ コンクリートの破片、釘がはね返り、事故の原因になります。
釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。
・ 斜めに打つとコンクリートの破片、釘がはね返り、事故の原因になります。
ものを吊り下げる所（配管の吊り下げなど）へ使用しないでください。
・ 事故の原因になります。

・ 下の表を参考にしてコンクリートへの貫入量が10～15 mm になるように釘を選定してください。

木の厚さ（mm）	釘の長さ（mm）	コンクリートへの貫入量（mm）
30 ～ 35	45	10 ～ 15
35 ～ 40	50	10 ～ 15
50 ～ 55	65	10 ～ 15



注

・ 本製品は、打設後まもない、軟らかいコンクリートのみに使用してください。硬いコンクリートに使用すると、釘が曲がったり、十分に打ち込めないことがあります。
・ 使用空気圧を低くし、打ち込み深さ調整を ╥ 沈側で使用すると安定した打ち込みができます。
・ コンクリートへの貫入量が 15 mm より深い場合、十分に打ち込めないことがあります。
・ コンクリート打ち作業ではドライバ（芯棒）が摩耗しやすくなります。摩耗すると釘が正常に打ち込めない場合がありますので、新品のドライバ（芯棒）に交換してください。

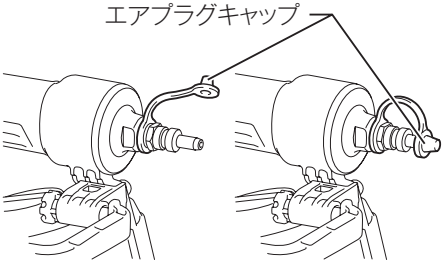
保守・点検について

⚠ 警告

点検・整備の際は、必ず本製品からエアホースをはずしてください。
・ 誤って本製品が作動すると事故の原因になります。

作業後の保管

・ 本製品内にゴミやホコリなどが入ると故障の原因になります。
使用しないときにはトリガをロックし、エアホースをはずしエアプラグにエアプラグキャップをしてください。



[作業中]　　[作業後]

・ 長時間使用しないときは防錆のため、しゅう動部にマシン油などを塗布し、プラスチックケースに収納してください。
・ 湿気の多い所、日光の当たる所、粉じんの多い所は避けて保管してください。

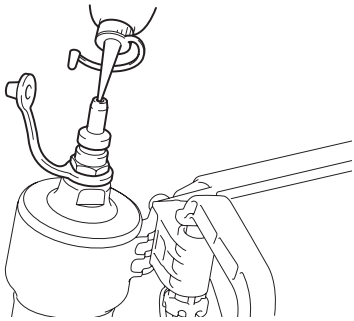
保守・点検について

本製品の清掃

・ 本製品が、ホコリ・木屑・砂などで汚れている場合は、エアダスタで清掃してください。
・ マグネットに付着した鉄粉を取り除く場合は、エアダスタで吹き飛ばしてください。

純正オイルの使用

・ オイルは当社純正オイルを必ず使用してください。作業終了後、本製品に付属している油さし（タービン油VG32）で2 ～ 3 滴エアプラグより注油してください。
・ 指定外のオイルを使用すると、故障の原因となります。



本製品のお手入れ

・ 乾いた布か薄めた中性洗剤を付けた布できれいに拭いてください。

注

- **水洗いは絶対にしないでください。**
  - 本製品内部に水が入り、故障の原因になります。
- **ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。**

ご修理の際は

・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

メモ

メモ

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711（代表）

881D74B2
IWT